

浪花グランドロマン公演台本

*(Alice au pays des merveilles)*

# 夕暮れのアリス

安倍 枕流

## 【登場人物】

アリス(高校一年生)  
男1(数学者)  
男2(帽子屋)  
男3(三月兔)  
男4(チエシヤ猫)  
男5(女王様)

たとへば、繁華街の裏手。雑踏の微かな騒めき。

西の空に闇の色が溶け始めるころ。人々の顔は暗がりに沈み、識別のた  
めの手掛かりは失はれてしまふ。

「誰ぞ彼は」……。

黒い猫のぬひぐるみを抱いた制服にコート姿の女の子が、一隅に佇ずん  
でゐる。

アリス。

アリス（ぬひぐるみに）まあ、いけないいけない仔猫ちゃん……。ほんとに、もう、

おかあさんのダイナがちゃんとしつけなかったせぬね……。わかてるの……？  
あたし、怒ってるのよ、キキ……。ほら、おかあさんがゐないからって、おりこ  
さんにしてないとだめぢやないの……。え……。？ なに……。？ ごろごろいつて  
るだけぢや、わかんないわ……。ほんとに、あんたはダイナと、どうやってオハナ  
シしてたのかしら……。やっぱり、はだかでだきあふの……。？ はだかでだきあつ  
てたら、言葉がなくても、ちゃんとわかりあへたの……。？ ほらほら、だめよ、  
そんな顔したって……

ト、アリスの手を逃れるかのように転げ落ちるぬひぐるみ。

アリス あ……

ぬひぐるみは、物陰から現はれた男1の足下に転がる。

男は、ゆつくりとした動作でぬひぐるみを拾ひ上げると、懇ろに塵を  
払って、アリスに差し出す。

アリス ありがとう……

差し出されたぬひぐるみを受け取らうと腕を伸ばすアリス。

男と眼が合ふ。

刹那、アリス、客を値踏みする眼付きになる。

一瞬絡み合ひ、直ぐに解ける二人の視線。

男、アリスの前を通過して立ち去る。

アリス（男の方を見やりつゝ、繰り返す）ありがとう……

音楽。

ゆつくりと現れる男2と男3。

男2はティー・カップと受け皿ソッサーを、男3はティー・ポットを手にしてゐる。

男2 寒いな……

男3 あゝ、寒い……

男2 お茶でも飲むか……

男3 あゝ、お茶でも飲まう……

男3、男2のカップに紅茶を注ぐ。男2、注がれた紅茶を啜する。

さうしながらも、二人は、辺りに目を配つてゐる。アリスにも目をやるが、気に止めた風はない。

男2 お前も、飲んだらどうなんだ……？

男3 (ポットを示して)こいつから直ちかには飲めねえさ……

男2 ぢやあ、仕方がねえな……(ト、再び紅茶を啜る)

男3 あゝ、仕方ねえ……

男2 ……

男3 ……

風が吹く。

男2 風が、出てきたな……

男3 あゝ、風が出てきた……

男2 奴も、寒からうな……

男3 あゝ、奴も寒からう……

男2 ……

男3 ……

アリスが、二人に歩み寄る。

アリス あの……

男2 悪いな、コギヤルの相手はしちやならねえことになつてるんだ……

男3 組のお達しでな……

アリス ……

男2 お前ら、商売敵なんだぜ……

男3 組長なんて、コギヤルは全員監禁して外国に叩き売れて云つてるぐらゐだか  
らな……

アリス ……

男2 とつ捕まらねえうちに……

男3 (男2のカップに紅茶を注ぎ足し) 失せな……

アリス ……(去らうとする)

男2 (アリスには目もくれず、カップから紅茶を啜って) 判ってるだらうが――

アリス (立ち止まり、男たちの方を振り返る)……

男2 こっだけぢやねえぞ……

男3 ウチのシマでの売春は許さねえからな……

アリス (再び、去らうとする)……

男2 寒いな……

男3 あゝ、寒い……

アリス (ト、男たちの方に向き直って) あの……

男2 (アリスの方に頭を向け)……？

アリス すいません……

男3 (同じく) 金か……？

男2 近頃ぢや、コギヤル相場も安くなってるんだろ……

男3 地道にバイトでもしろって……

男2 オヤヂ連中だって、贅沢できねえんだ……

男3 この不況ぢやな……

男2 お前らに使ふ金なんざ持ち合はせちやめえさ……

男3 大体、「条例」出たんだ、オヤヂの方だってヤバイと思ふ……

男2 最近ぢや、そいつを逆手にとつて、オヤヂ脅す奴だつてゐるさうぢやねえか……

…

アリス お金なんかぢやありません……

男3 男啜へ込まねえと寝られねえってんぢやねえだらうな……

アリス (俯いたま) ちがふ……

男2 (再びアリスから眼を離し、ぼんやりと) なら、何だ……

男3 (男2のカップに紅茶を注ぎ足し) ぢやあ、何だ……

アリス そんなぢやないんです……お金なんか……

男2 貰ってんだろ、ちゃんと……

アリス (項突く)……

男3 まさか、家庭でも会社でも居場所のない淋しいオヤヂに、束の間、夢見せて

やる天使様だなんて云はねえでくれよ……

男2 (カップの紅茶を啜り) 悪いこと云はねえ……。お前が客引いたら、俺たちだつ

て黙ってるわけにやいかなくなる……

男3 さういふのを、見逃すわけにやいかねえんだ……

男2 ケヂメつてやつさ……

男3 お前らの世界にだつて、あるだろ、ケヂメ……

男2 さう、どんな世界にも、ケヂメはある……

男3 俺たちが、こんなところでこんなことしてんのも、そいつの所為さ……  
男2 寒空の下、な……  
アリス 探してるんですか、だれか……  
男3 最近ぢゃ、珍しくもねえ野郎さ……  
男2 フォーシューローシヤつて、聞いたことあるか……？  
アリス (項突く)……  
男3 まあ俺たちだつて、ちゃんとこの国のお役に立つてるってわけさ……  
男2 さあ、もういっただろ……  
男3 お前もフォーシューローすんぢゃねえぞ……  
男2 コドモは帰って宿題でもする時間だ……  
男3 今度見つけたら、学生証と携帯をもらふからな……  
アリス 持つてません、携帯とか……  
男2 (アリスの方を向き)ほう……。どうやって、連絡取る……？  
アリス 電話は、使はない……  
男3 ぢゃあ、道で声かけまくんのかよ……  
アリス (項突いて)嫌ひなんです、電話……  
男2 どうしてだ……  
アリス 見えないから……  
男3 何が……

アリス その人の顔が……  
男2 人でも探してんのか……？  
アリス ……  
男3 おい……  
アリス いっえ……  
男2 (アリスから眼を離し)なるほどな……  
男たちは仕事に戻る。  
アリス、三度去らうとする。ト、  
男2 おい……  
アリス え……  
男2 何て名前だ……  
アリス アリス……  
男2 行け……

アリス、黙つて去る。  
男たちは振り返りもせず、凝つと一方を見続けてゐる。

男2 見たことあるか……  
男3 いや……  
男2 昨日今日始めた風ぢやなかったぞ……  
男3 コギヤルなんて掃いて捨てるほどあるんだ、一々憶えちやめられねえ……  
男2 電話嫌ひか……  
男3 金だよ、金……  
男2 違ふつて云つてたぜ……  
男3 嘘に決まつてるだろ……  
男2 なるほどな……  
男3 コギヤルの世界も不況なのさ……  
男2 さうだな……  
男3 ……  
男2 寒いな……  
男3 あゝ、寒い……

男たち動かない。

音楽。

## 2 星夜 *Une nuit étoilée*

夜。繁華街に繋がる通り。雑踏の気はひ。  
物陰を背にして、寒さうに立つてゐるアリス。

アリス ベテルギウス、へいけぼし……、リゲル、げんじぼし……、シリウス、あおぼし……、アルデバラン、あかぼし……

音楽。

男4、ひっそりと現れる。

男4 こんにちは、お嬢さん……  
アリス こんにちは……  
男4 かう明るくちや、見えやしないだろ、星なんか……  
アリス なんとなく……  
男4 (夜空を仰ぎ見て)どのあたりに見える筈なんだ、オリオン座つてのは……？  
アリス (南西の夜空を指して)あのへん……  
男4 (夜空を仰ぎ見たまゝ)ベテルギウス、オリオン座α星、○・八等、赤い星……、リゲル、オリオン座β星、○・一五等、白い星……

アリス (少し、表情が和む)……

男4 (にやつと笑って)お祖母さんにも聞いたのかい……

アリス (首を振って)本で……

男4 近頃のコードモは、本なぞ読みやしないと思ってたがね……

アリス そんなことありません……

男4 メシ食うか……？

アリス (首を振る)……

男4 聞いたことあるだろ、「ラ・クッチーナ・デ・ラ・ドゥケッサ」[La Cucina de la

Duchessa]ってイタ飯屋……？

アリス すいてませんから、おなか……

男4 ぢゃあ、オケるか……？

アリス どこでもいんです……

男4 いゝのか、愛想良くしなくて……

アリス いやならいゝです、別の子にしてくれて……

男4 ……

アリス ……

男4 幾らだ……？

アリス (ゆっくりと片手を広げる)……

男4 ほう……

アリス 三でも、いゝです……

男4 下は無しか……

アリス (首を振る)……

男4 安いな……

アリス それしか、できないですから……

男4 メシだけで三とか、オケって四とかいふんぢやないのか……？

アリス さういふ人もあります……

男4 あるんだろ、相場って……

アリス だれともしないから、そんな話……

男4 去年までは、口だけで十、初物なら二十だったってな……

アリス ないです、そんなに、もらったこと……

男4 どっか間違っていないか……？

アリス (表情が強ばる)……

男4 ヲカシイと思はないか、皆んな……(煙草に火を点ける)

アリス さあ……

男4 ぢゃあ、どうしてこんなとこに立ってる……？

アリス なんとなく……

男4 ブランド物か……？

アリス ……

男4 それとも海外旅行か……？

アリス べつに……

男4 気持ち良くなりたいたいのか……？

アリス 違います……

男4 気持ちいゝぞ、Sとかハッパとか喰らつてやると……

アリス ……

男4 遭ったことないのか、怖い目……？

アリス (首を振る)……

男4 どうする、俺がヤクザだったら……？

アリス 取材かなんかだったら、他の子、見つけてください……

男4 (再びにやつと笑つて)そんな風に見えるか……？

アリス サラリーマンには……

男4 なるほど……

アリス ……

男4 矢つ張りヲカシイんだな、俺も、お前さんも……

アリス あなたも……？

男4 フツーなら、こんな時間に働きやしない……(煙草を吹かす)

アリス (俯く)……

男4 人、探してるんだ……

アリス (顔を上げ)探偵……？

男4 興信所員さ……(煙草を消す)。「ウサギ」って女の子のこと、聞いたことは……

……？

アリス (首を振る)……

男4 (手帖を取り出して、ページをめくり)一ト月前に、援助交際<sup>エ</sup>が親バレして、

怒った父親にぶん殴られて家出、一五五センチ、五〇キロ、色白、着てみた高校

の制服は、チェックのベストに——(アリスの顔を窺<sup>うかが</sup>ふ)

アリス 知りません……

男4 さうか……。(手帖をしまひ、名刺を出す)何か耳に這入<sup>は</sup>ったら、教えてくれ

……

アリス 嫌ひなんです、電話……

男4 手紙でもいゝぞ……

アリス (名刺を受け取る)……

男4 この辺りか、いつも……？

アリス 金曜日だけ……

男4 親にはバレてないのか……

アリス わからない……

男4 毎週遅いんだろ……

アリス おとうさんも遅いから……



男4 さうか……  
アリス ……  
男4 ほどほどにしとくんだな……  
アリス (顔を上げて、男4を見る)……  
男4 こーちゃ、皆んなどっか狂ってる……  
アリス こーは……  
男4 まあ、この国ぢや、どこ行つたつて、同じかもしれんがな……  
アリス さう……  
男4 また来るかもしれん……  
アリス ……  
男4 名前は……  
アリス アリス……

男4、にやりと笑つたまゝ、闇に溶けるように消え去る。

音楽。

風。アリス、ぬひぐるみを抱きしめる。

アリス キキ……。どうしたの……。おかあさんは来ないのよ……。もう忘れちゃったの……。？ だめねえ……。忘れんぼさん……。おかあさんに会ひたい……。？

しゃうがない子ね……。ダイナはね、遠いところに行つちやっただから……。おぼえてない……。？ ほら、けふみたいな寒い日に……

ト、いつのまにか、隅に男1が立っている。

男は、アリス越しに、反対側の方向に眼を凝らしてゐる。

アリス (男に気づき)こんばんは……

男は、ちらりとアリスの方を見やり、項突いてみせる。が、直ぐさま、視線を戻す。

アリス あの……  
男1 (アリスを見る)……  
アリス わたし……  
男1 ……？  
アリス どうですか……？  
男1 ……  
アリス 三でいす……  
男1 (眼を逸らす)……

アリス さうですか……(俯く)

不意に男はアリスの方に足を踏み出す。その気はひに駭いて、顔を上げるアリス。男と眼が合ふ。次の瞬間、男は、アリスの背後の物陰に身を隠してゐる。

ト、男が注視してゐた方向から駆け込んでくる男3。

男3 (アリスに気づき、舌打ちする)まだぬやがったのか……

アリス (軀からだを強ばらせる)……

同じ方向から、男2がゆつくりと現はれる。

男2 男が来たろ……

アリス (二人の顔を見る)……

男2 がつしりした軀つきで、黒っぽい服を着てる……

男3 こんぐらゐの背の奴だ……

アリス (ゆつくりと項突く)……

男2 どつち行つた……

アリス (ゆつくりと腕を持ち上げると、男1の現れた方を指す)……

男3 (アリスに向かひ)とつと、引き上げろよ……

男3、さう云ひ棄てると、アリスの指した方へ駆け去る。

男2 アリス、つていつたな……

アリス ……

男2 じゃあ、読んでんだろ……『不思議の国のアリス』……

アリス (項突く)……

男2 アリスは、夕暮れどきには、ちゃんと不思議の国から帰ってくる……

アリス ……

男2 『鏡の国』でだつてさうだ……

アリス ……

男2 帰つてこねえアリスは、アリスぢやねえ……

アリス わたしはオハナシのなかのアリスぢやない……

男2 ……

アリス ……

男2 じゃあ、何だ……

アリス ……

男2 何者だ……

アリス わたしは、わたし……

男2 誰が決めた……

アリス ……

男2 誰が、お前をアリスだと決めた……

アリス それは……

男2 教えてやろう……

アリス ……

男2 他人が決めるんだ……

アリス ……

男2 俺が、「お前はアリスだ」と云へば、お前はアリスだ……

アリス ……

男2 俺が、「家へ帰れ」と云へば、お前は帰るんだ……

アリス ……

男2 解ったな……

アリス ……

男2は、アリスの眼を覗き込むやうに見る。俯くアリス。

徐然、男2は男3の後を追ふ。

アリス、男たちの駆け去った方を、ぼんやりと見やる。

ト、男たちの気はひが去ったことを確かめた男1が、物陰から立ち上がる。気づいて、振り返るアリス。男は、アリスを一瞥すると、眼で感謝し、男たちの去ったのとは反対方向に去らうとする。

アリス あの……

男1 (立ち止まり、振り返る)……

アリス 危ないです、そっち……

男1 ……

アリス ぬけられないから……

男1 ……

アリス 逃げるんなら、あつちが……(別方向を指さす)

男1、アリスの顔と、アリスの指さす方向を見較べ、その方向へ向き直る。

アリス あの……

男1 ……?

アリス いっしょに行ったら、いけませんか……

男1 (首を振る)……

アリス ホテルだったら、見つかりません……

男1 (困惑)……

アリス だめですか、わたし……(精一杯の媚態)

男1 (微かな訛)いりません……

アリス さうですか……(俯く)

男1 欲しいですか、お金……？

アリス ……

男1 (大きな息を吐き)わかりました……

アリス (顔を上げて)え……

男1 恩人です……

アリス (漸く思ひ当たり)外国の人……？

男1 (項突いて、高価さうな札入れを出すと、中から万札を十枚ほど抜き出し、

アリスに差し出す)……

アリス ……？

男1 お礼……

アリス こんなに……

男1 (再び項突く)……

アリス あの……

男1 どうぞ……

アリス (首を振り)いえ、ちがふんです……

男1 (訝しむ)……？

アリス お金ぢや、ないんです、ほんとは……

男1 お金ぢや、ない……？

アリス あの……

男1 (札を差し出したまゝ)急ぎます……

アリス ぢやあ、い……

男1 ……？

アリス いりません……

男1 なぜ……？

アリス さうぢやなくて……

男1 どう……？

アリス あの……

男1 ……

アリス いつしよにゐて――

男1 一緒に……？

アリス わたしと、してほしいんです……

男1 (アリスを見つめる)……

アリス すいません……

男1 ……  
アリス (唇を噛む) ……  
男1 私 ……  
アリス もう、いんです……。さやうなら……(立ち去らうとする)  
男1 (去らうとするアリスの腕を掴み)一寸……  
アリス え……  
男1 わかりました……  
アリス いんですか……  
男1 (項突いて)早く……  
アリス はい……(項突く)  
男1 名前は……  
アリス アリス……

男1、項突くと、素早く辺りを見回し、アリスを抱きかかへるやうにして連れ去る。  
音楽。

### 3 風道 *Le chemin du vent*

風。  
隅に、携帯電話に話し掛ける男4の姿が浮かび上がる。

男4 え……さうです……。いえ、大丈夫です、クスリやつてるといふ噂も聞きませんし……え、今のところ……

反対側の隅に、受話器を手にした男5の姿が浮かび上がる。

男5 さうですか……わかりました……  
男4 え……  
男5 私の責任です……  
男4 いえ、それは……  
男5 忙しさにかまけて、あまり、相手をしてやれませんでしたから……  
男4 銀行でいらつしやいましたよね……  
男5 え……  
男4 私の友人にもをりますが……  
男5 さうですか……  
男4 そいつも、会ふたび、忙しい忙しいと……

男5 かういふ時節ですからね……  
男4 えゝ……  
男5 たゞ、私は、ずっとさうでして……  
男4 昔から……  
男5 毎日午前様でした……  
男4 大変ですね……  
男5 その所為ですよ、あれも……  
男4 奥様のことですか……  
男5 普段は考へもしないことなんですが……  
男4 ……  
男5 矢張り、かういふことがありますと……  
男4 えゝ……  
男5 娘つてのはなかなか厄介なもんですよ、男親にとつちや……  
男4 ……  
男5 どういふ話をすればいゝものか……  
男4 さうですか……  
男5 言葉が……  
男4 言葉……？  
男5 えゝ、言葉が通じないといふか……

男4 お嬢さんですか……  
男5 さうなんです……  
男4 ……  
男5 何か、面と向かつて話していないといふ感じで……  
男4 えゝ……  
男5 丸で電話で話してゐるかのやうな……  
男4 電話で……  
男5 手応へが感じられないんですよ、言葉に……  
男4 手応へ、ですか……  
男5 もどかしいんですよ……  
男4 なるほど……  
男5 娘の方も、そんな感じで……  
男4 お嬢さんですか……  
男5 えゝ……  
男4 ……  
男5 娘には悪いと思つてます……  
男4 ……  
男5 あつちが引き取りたいと云つてきたとき、頑として撥ねつけたんですよ……  
男4 ……

男5 収入の問題を盾にしたんですが、勿論、娘も可愛かった……  
男4 え……  
男5 ですが、あれは寧ろ、娘を取り上げるといふ、嫌がらせでした……  
男4 ……  
男5 その挙げ句、家庭の事情が出世に差し支へることを惧れて、仕事を優先……  
男4 ……  
男5 娘は、ずっと耐へてゐたにちがひありません……  
男4 さうですか……  
男5 志望高校にも受かったのに、あゝなつてしまった……  
男4 しかし……  
男5 (思ひ詰めたやうに)病んでゐるんです、娘は……  
男4 病んでゐる……？  
男5 娘のことを知つてから、かういふ子供たちのことを扱つた本を幾つか読みました……  
男4 え……  
男5 それで、漸く判つたんです……  
男4 ……  
男5 片親で、しかも顧みられなかった……  
男4 ですが……

男5 言葉が通じないのもその所為です……  
男4 (些か困惑)はあ……  
男5 愛情に飢ゑてゐるんです……  
男4 ……  
男5 娘には、私が必要なんです……  
男4 ……  
男5 仕事も少し休むことにしましたし……  
男4 お仕事を……？  
男5 え、娘のためです、当然ですよ……  
男4 いゝんですか……  
男5 (聞こえなかつたかのやうに)これからは、毎日、娘と話す心算です……  
男4 ……  
男5 (妙に晴れやかに)娘の云いたかつたことに、じっくり耳を傾けます……  
男4 さうですか……  
男5 勿論、調査の方は、ご継続なさつてください……  
男4 はあ……  
男5 ここで私が出しやばつては、娘も警戒するでせう……  
男4 さうですね……  
男5 私の役割は、家にあることですから……

男4 えゝ……  
男5 大丈夫です……  
男4 ……  
男5 いづれ娘も、元に戻りますよ……  
男4 えゝ……  
男5 それまで、一つ、宜しく願ひします……  
男4 勿論です……  
男5 では……

男5の姿、ふっと消える。

風。

男4は、切れた携帯を暫し眺め、ポケットにしまはうとする。が、ふと思ひ付いて、どこかに電話する。

男4 ……あゝ、俺だ……久しぶりだな……少し知りたことがあるんだが……いや、銀行屋だ……あゝさうだ、例の件のだ……あゝ、判ったら連絡をくれ……。それから、もう一つ……さう、女子高生だ……あゝ……名前は、アリス……

音楽。

男4の姿、見えなくなる。

入れ替わりに、反対側の隅に、相変はずカップを手にした男2の姿が浮かび上がる。

少し遅れてポットを持った男3が現はれ、男2に耳打ちする。

男3 さつき事務所に、繋がりのあるポン引きから連絡があった……  
男2 どこだ……  
男3 ホテル街の裏だ……  
男2 それで……？  
男3 (苦々しげに)まきやがった……  
男2 何人行かせた……  
男3 六人だ……  
男2 そんなだけか……  
男3 例の件の方に取り立てる……  
男2 なるほどな……  
男3 それに……  
男2 何だ……  
男3 女と一緒にあやがる……  
男2 店の女か……



男3 いや……  
男2 ……  
男3 コギヤルらしい……  
男2 コギヤル……？  
男3 制服着てたさうだ……  
男2 さうか……  
男3 近頃のガキは、全くわからねえ……  
男2 さうだな……(紅茶を啜る)  
男3 ガキ連れてる奴に逃げられるなんて……  
男2 奴だからな……

風。

男2 風だ……  
男3 あゝ……  
男2 奴も凍えてる……  
男3 あゝ……  
男2 風の通り道のやうだな、この辺は……  
男3 さあ、俺たちも早く行かうぜ……

男2 その前に……  
男3 何だ……  
男2 あいつの連絡先、知ってるか……  
男3 あいつ……？  
男2 ガキ専門の興信所員……  
男3 あいつか……  
男2 さうだ……  
男3 事務所に訊きゃわかる……  
男2 連絡つけろ……  
男3 (駭いて)おい……  
男2 (有無をも云はさず)つけろ……  
男3 (携帯電話を取り出しながら、云ひ訳がましく)腐るほどあるんだぜ、コギヤルなんてよ……  
男2 (紅茶を啜る)……  
男3 幾らあいつだつて……  
男2 (男3の言葉に耳を貸さず)なぜだ……  
男3 (携帯のボタンを押しつつ)……？  
男2 なぜ奴は、ガキに声を掛けたんだ……  
男3 (携帯に向かって何やら話す)……

男2 なぜ、まだ、この街に——この国にゐる……

音楽。

風。

4 星夜<sup>ほしよ</sup>2 *Une nuit étoilée* 2

繁華街の外れにある公園。

ベンチの上のアリスと男1。

足下に、打ち棄てられた空き缶やボール。

アリス、足下の空き缶やボールをつま先で弄<sup>もよほ</sup>んでゐる。

男は、手帖に何やら書き込んでゐる。

アリス (男に向かつて) あのこと……

男1 (手を止めない) ……

アリス 名前、なんていふんですか……

男1 (手を止めない) ……

アリス なにがあつたんですか、ヤクザと……

男1 (手を止めない) ……

アリス ……

男1 (手を止めない) ……

アリス ホテル、行かないんですか……

男1 (手を止めない) ……

アリス (溜息を吐くと、夜空を見上げて、呟<sup>つぶや</sup>く) ベテルギウス、へいけぼし……、リ

ゲル、げんじぼし……、シリウス、あおぼし……、アルデバラン、あかぼし……

男1 (手帖とペンをしまひながら) 星……? ?

アリス さう、日本の名前……

男1 好きか……? ?

アリス うん……

男1 こゝは、あまり見えない……

アリス さう……街があかるすぎて……

男1 ……

アリス ほんとは、ちゃんと出てるのに……

男1 ……

アリス わたしみたい……

男1 あなたみたい……? ?

アリス ゐるのに、見えない……

男1 ……

アリス だれもわたしが見えない……

男1 ……

アリス だれもわたしの名前を呼んでくれない……

男1 ……

アリス わたし自身も、わたしが見えない……

男1 ……

アリス お星さまといつしょ……どこにあるかわからない……

男1 ……

アリス ごめんなさい……

男1 なぜ……？

アリス わかんないでしょ、こんな言葉……

男1 (曖昧に項突く)……

アリス でも、わたしだつてわからない、どういったらいのか……

男1 ……

アリス ほんとは苦手なんです、他人ひとと話すの……

男1 なぜ……？

アリス どうしてだらう……

男1 ……

アリス もしかすると、怖いのかも、言葉が……

男1 言葉が……

アリス 昔から、さうだった、ずっと……

男1 ……

アリス いひたいことが、伝はらなくて……

男1 ……

アリス 誤解ばっかしされて……

男1 ……

アリス だんだん、話すのがいやになって……

男1 ……

アリス キキとだったら話せるのに……

男1 キキ……？

アリス この子(ト、ぬひぐるみを示す)……

男1 人形……

アリス ネコのぬひぐるみ……昔、おかあさんに買ってもらったの……

男1 心配していないか、こんな時間……

アリス (ぼんやり、空を見上げながら)あないの、おかあさん……ちっちゃいとき、

出てちっちゃって……

男1 ……

アリス ……

男1 ぬひぐるみは、喋らない……

アリス うん……

男1 私も……

アリス え……？

男1 あまり喋れない、この国の言葉……

アリス (はっとする)……

男1 (どことなく淋しさうな笑み)……

アリス ……

男1 誰にでもわかる……星の位置……

アリス 星の位置……

男1 計算すれば、すぐわかる……

アリス 計算……

男1 (項突いて、手帖とペンを出し、図と計算式を書き始める)……

アリス ……

男1 このDとLの角度わかれば、星の位置P、すぐわかる……。Pの座標 $(x, y, z)$ は、  
( $\sin D \cos L, \sin D \sin L, \cos D$ )……

アリス 三角関数……

男1 (微かに笑みを浮かべて)さう……。でも、計算、わからなくても大丈夫……。

これ……(ト、ポケットから関数電卓を出して見せる)

アリス (少し笑ふ)……

男1 だけど、この真ん中のO、観測する人の場所……

アリス ……

男1 星の位置決めるためには、観測する人、必要……

アリス (ゆっくりと項突く)……

男1 Oの人おないと、星の位置わからない……

アリス わたしを、決める人……

男1 (曖昧に項突く)……

アリス ……

男1 あなたのO……

アリス そんな人……

男1 (自分を指さす)……

アリス え……

男1 (項突く)……

アリス ……

男1 昔、学生だった……

アリス 昔……

男1 昔、勉強するため、この国へ来た……

アリス 留学生……

男1 (項突き) 勉強してたの、geometry、三角とか四角とか……

アリス 幾何学……

男1 *Alice's Adventures in Wonderland*、アリスといふ女の子の出てくる本……

アリス 『不思議の国のアリス』……

男1 書いたのは、数学者……論理学と幾何学勉強してた……

アリス (項突く)……

男1 特に勉強してたの、ユークリッドといふ人の幾何学、Euclidean geometry

アリス ユークリッド……?

男1 それは普通の幾何学、並んだ真っ直ぐな二本の線、絶対クロスしない……

アリス 平行線……

男1 (項突き)でも、ユークリッドぢやない幾何学、non-Euclidean geometry、その

イコウセン、クロスする……

アリス どうして……?

男1 (足下のボールを拾ひ上げ、その球面に二本の経線を書き入れる)……

アリス 地球儀みたい……

男1 この二本の線、この上ではイコウセン、クロスしない……

アリス ……

男1 (ボールの頂点を指し)でも、ここまで行くとクロスする……

アリス うん……

男1 私たち地球の上、non-Euclidean geometry、並んだ二人、ずっと歩いてゆく、  
いつか必ず——

アリス いっしょになる……

男1 (項突く)……

アリス けど……

男1 心配ない……

アリス ……

男1 (アリスの腕の中のネコのぬいぐるみを指し)私も、言葉、喋れない……

アリス (項突く)……

音楽。

不意に、男1、一方を振り返り、そのまま、ゆっくりと立ち上がる。訝る

アリス。

男1 少し、待って……

アリス どうしたの……

男1 知り合ひ……

男1、注視してめた方向へゆっくりと歩み去る。  
残されるアリス。不安に駆られて立ち上がらうとしたところへ、別方向から男4が現はれる。はっとするアリス。

男4 (にやりと笑って) また会ったな……

アリス ……探偵さん……

男4 興信所員さ……

アリス 見つけられましたか、ウサギって子……

男4 ……いや……

アリス ……

男4 夜遊びにしちゃ、遅すぎる時間だ……

アリス 徹夜オウルやってる子だつてゐます……

男4 クラブとかへ行きやあな……

アリス ……

男4 こんな人通りのないところぢやな……

アリス ……

男4 声を掛ける相手だつてゐやしない……

アリス 興信所員さんこそ……

男4 仕事さ……。場所の好き嫌ひは云つちやあゐられない……

アリス ……

男4 知ってるだろ……『不思議の国のアリス』……

アリス (項突く) ……

男4 ちゃんと夕暮れときには、不思議の国から帰ってくる……

アリス わかっています……

男4 こいつぁ、おみそれしたな……

アリス おんなしこと、いはれましたから……

男4 ほう……誰にだい……

アリス ヤクザ……

男4 (一瞬、苦い顔になる) ……

アリス その人が「おまへはアリスだ」つていたら、わたしはアリスなんだ、つて……

男4 ……?

アリス だから、その人が「家へ帰れ」つていたら、帰らなくちゃいけないんだ、つて……

……

男4 (咳く) 生活安全課所属のヤクザだな……

アリス 知りあひですか……

男4 まあな……。それよか、そいつぁ逆だ……

アリス 逆……?

男4 (項突いて) お前さんがアリスだつて云ったら、お前さんはアリスなのさ……

アリス わたしが……

男4 あゝ……

アリス ……

男4 他人の人生を、どうかう出来る奴なんてあやしない……

アリス ……

男4 だから、俺は忠告するだけだ……

アリス ……

男4 そろそろ、足洗へつてな……

アリス ……

男4 お前さんが決めるんだ……

アリス でも……

男4 何だ……

アリス 他の人が、わたしのことアリスぢやないっておもってたら……

男4 (やゝ困る)……

アリス わたしは、だれ……

男4 なるほどな……

アリス いつも、それが怖かった……

男4 ……

アリス だから……

男4 ……

アリス ……

男4 この国ぢや、昔から、「沈黙は金」だ……

アリス ……

男4 口に出さなくなっただって、解ってくれる……

アリス さうね……(信じてゐない)

男4 あゝ……(矢張り信じてゐない)

アリス でも、この国は、みんな狂ってるって……

男4 (とほけて)そんなこと云ったか……

アリス ……

男4 ……

ト、男4の携帯が鳴る。びくりとするアリス。

男4 はい……(アリスのちらりと見て)あ、一寸お待ち下さい……(携帯を保留にする)

アリス ……

男4 (にやりと笑って)ぢやあな……

アリス（項突く）……

足早に去る男4。

それを待つてゐたかのやうに戻ってくる男1。  
気づくアリス。

アリス どうしたの……

男1（首を振る）……

アリス（男1の眼を見て）眼が怖い……

男1（微笑）……

アリス ……

男1 行かう……

アリス え……

男1 こゝは、明るすぎる……

アリス（項突く）……

音楽。

男4の去つたのとは反対方向に去る二人。

5 霜花 *La gelée blanche*

男4が、携帯で話してゐる。

男4 もしもし、私です……

受話器を握つた男5の姿が浮かび上がる。

男4 お嬢さんのことですが……

男5 え……

男4 少し、事情が込み入つたことになってきまして……

男5 と申しますと……？

男4 その……

男5 何でも仰有つてください……

男4 男と一緒になんです……

男5 男と……

男4 え……

男5 その男に会ふために……？



男4 いえ、それほど前からの知り合ひではなさそうなんですが……  
男5 偶々知り合った……？  
男4 その可能性が……  
男5 その男性が……？  
男4 え……  
男5 ヤクザですか……  
男4 いえ、さうではありませんが……  
男5 なるほど……  
男4 私の感触としては、そろそろ……  
男5 お任せします……  
男4 え……  
男5 ところで……  
男4 は……？  
男5 あれから、始めました……  
男4 ……？  
男5 娘ですよ……  
男4 ……  
男5 ちゃんとあの子の帰りを待ってましてね……  
男4 ……

男5 何でも話すやうに勧めたんですが……  
男4 あの……  
男5 こっちの訊いたことに、ぼつりぼつりと答へるだけで……  
男4 ……  
男5 元々無口な子でしたが……  
男4 え……  
男5 いや、大丈夫です……  
男4 ……  
男5 云いたいことはきつとある筈です……  
男4 ……  
男5 親子間の断絶が問題なんです……  
男4 ……  
男5 コミュニケーションさへ出来れば……  
男4 え……  
男5 あなたの報告を聞くまで、あの子の好きな物なんて、全く知りませんでした……  
男4 さうですか……  
男5 余所の国の人と話すときだつてさうでせう……  
男4 ……

男5 「異文化コミュニケーション」をやつてすよ……  
男4 え……  
男5 相手のことを良く知らないと、とんでもない誤解をしたりしますから……  
男4 え……  
男5 そこで、お願いなんです……  
男4 はあ……  
男5 私も、調査に同行させてもらへませんか……  
男4 え……  
男5 余所の国の人と話すときには、前以て、相手の文化を知っておく必要がありますよ……  
男4 文化ですか……  
男5 ですから、私も、女子高校生の文化を勉強することにしました……  
男4 女子高校生の……  
男5 娘と通じ合ふための簡単な準備ですよ……  
男4 ですが、お嬢さんは、その、普通の……  
男5 (断固として)いや、娘も同じです……  
男4 ……  
男5 皆んな、親の愛に飢ゑ、他人と通じ合ふことを望んであるんです……  
男4 ……

男5 あなたの調査対象は、そんな子供たちばかりぢやないですか……？  
男4 あの……  
男5 は……？  
男4 差し出がましいやうですが……  
男5 はい……  
男4 お仕事の方は……  
男5 娘は病んでゐるんです……  
男4 ……  
男5 私が治してやらねばなりません……  
男4 ですが……  
男5 苦しんでるんですよ、あの子は……  
男4 ……  
男5 どうすれば良いか、お判りですか……  
男4 いえ……  
男5 まづ薔薇です……  
男4 薔薇……？  
男5 うちには薔薇が植わつてゐるんですがね……昔、女房が好きで、それで植ゑたんですが、花の白い奴でしてね……  
男4 ……

男5 私は、薔薇は赤いのが好きなんです……真つ赤なやつが……白つていふのは、何と云ふか、不吉な色ですよ……昔、まだ、女房がゐたときのことですが、あの子が、薔薇の棘トゲで指を刺したことがあります……白い花びらの上に、あの子の指から赤い血が滴り落ちて、丁度、斑ハ入りの花びらのやうになつて……それを、あの女は、たゞ黙つて眺めてゐるだけでした……私が気づいて、あの子の指を止血してやつたから良かったものゝ……なのに、あの女は……それからですよ、私が白い花を嫌ひになつたのは……あの白さといふものが、どうも不吉だつたんです……早く抜いてしまへば良かったんですが……あの子が植ゑといってくれといふもんですから……(後半から、次第に、声がフェード・アウトしてゆく)

男4 また、ご連絡します……

男4、携帯を切る。同時に、男5の姿が消える。

携帯をしまふ男4。

音楽。

男2と男3が現はれる。

男3 よう……

男4 ぢぢぢぢきにお出ましか……

男2 寒いな……

男4 あゝ……

男2 一寸停めとくだけで、車の上が真つ白だ……

男4 俺は乗らないんでな……

男3 莫迦バカにされるだろ、電車で動き回る探偵なんて……

男4 慣れつこさ……

男2 どうだ、景気の方は……

男4 まあな……

男2 さうか……

男4 そつちはどうだい……

男2 まあまあだな……

男4 言葉の通じないお客さんたちとも、上手くやつてんのか……

男3 何のことだ……

男4 とぼけなくたつていいだろ……

男2 (無視して)相変はらず、ガキ相手の商売か……?

男4 他に取り柄がないもんでな……

男2 組ぐみならいつでも大歓迎だ……

男3 (信じられないといふ顔で男2を見る)……

男4 遠慮しとくよ……

男2 ……

男4 かういふ商売してると、大人の言葉つてやつが信じられなくなってくる……  
男3 利いた風な口利きやがって……  
男2 さうか……  
男4 ガキの相手の方が性に合ってる……  
男2 お前、ガキ相手に言葉通じるか……  
男4 勉強してるよ、仕事柄な……  
男3 どうやつて……  
男4 毎朝「コギャル語講座」を聞いてんのさ……  
男3 野郎……  
男2 言葉の通じねえ連中とは、話にもならねえ……  
男4 勉強するんだな、俺みたいに……  
男2 「暗黙の諒解」つて言葉、知ってるか……  
男4 多分、お前さんぐらゐにはな……  
男3 世間が上手く動いてくための潤滑油だよ……  
男4 「大人の知恵」つてやつか……  
男2 だが、余所者はそいつをぶち壊す……  
男4 国際化社会に逆行してるな、さういふ考へ方は……  
男2 お客なら、お客らしくしてればいい……  
男4 ガセの覚醒剤ルートでも掴まされたか……？

男3 知ってるだろ、ウチの組はクスリ厳禁だつて……！  
男4 お前らんとこの連中、近頃、高い店バンバン行ってるさうぢやないか……  
男3 だからシャブやつてるつての……！  
男4 知ってるよ……  
男3 何……  
男4 裏ROMだろ……  
男2 なら、話は早いな……  
男4 かもな……  
男2 打ち子の元締めやらしてた留学生崩れの奴がゐる……  
男4 ……  
男2 理系で手先も器用なんで、改造も任せてた……  
男4 (皮肉っぽく)ところが或る日、パチンコ台の権利を横流した……  
男2 (首を振って)ROMの設計図だ……  
男3 おかげで、こっちは戦争寸前よ……  
男4 そりゃ大変だ……  
男3 笑ひ事ぢやねえ……  
男2 探してほし……  
男4 知ってるだろ、俺はガキ専門だつて……  
男3 ガキと一緒なんだよ……

男4 ガキと……？  
男2 あゝ……  
男4 途方もないバックが付いてんぢやないのか……  
男2 判らん……  
男4 危険手当が高く付くぜ……  
男2 構はん……  
男3 知らねえか、さういふの……  
男4 ……  
男3 お前、ガキの味方だろ……？  
男4 ……  
男2 つい最近のことだがな……  
男4 ……  
男2 どうだ……  
男4 いや……聞かないな……  
男2 (探るやうな眼付き) 本当か……  
男4 あゝ……本当だ……  
男3 おい……  
男2 (男4の眼を覗き込むやうに) それらしいの聞き込んだら、教えてくれ……  
男4 あゝ……解った……

ト、男3の携帯が鳴る。携帯に出る男3。

男3 俺だ……何……解った……(携帯を切る)  
男2 どうした……  
男3 応援に呼んでた奴が殺られた……  
男2 (眼を細める)……  
男3 ついそのホテル街の公園のトイレだ……  
男4 (その言葉に反応する)……  
男3 (頸動脈を示し)ここをスツパリやられてたさうだ……。奴に違ひねえ……  
男2 警察が事務所に来たんだな……  
男3 あゝ……。ちぎ、警官どもで溢れ返るぞ……  
男2 (男4に)さういふわけだ……  
男4 ……  
男2 判ってくれたらう……  
男4 ……  
男2 精々、急いでくれよ……

音楽。

足早に去る男2と男3。

それを見届けた男4、携帯を取り出し、電話する。

男4 あゝ、俺だよ、こなひだクラブで会った……違ふよ、興信所員……居所知り  
たい子がゐるんだ……いや、一人でやってる……頼むよ、急ぎなんだ……見か  
けたら教えてくれ……名前は、アリス……

音楽。

男4、闇に溶ける。

6

暁闇 あかつきぐらみ

*Une aurore sombre*

夜明け前。繁華街の外れにある神社の境内。

アリスが独り、ベンチに腰掛けてゐる。

アリス (矢つ張り夜空を見上げながら、呟くやうに) アークトゥルス、むぎぼし…  
…、スピカ、しんじゅぼし……、アンタレス、ほうねんぼし……、ヴェガ、おりひめ  
ぼし……、アルタイル、ひしぼし……

風。

アリス (歌ふやうに) 風がとほる……星のあひだを、とほりぬけてゆく……

風。

アリス (ふと腕時計に眼をやり) もう、夏の星座がのぼってくる時間……。 (再び  
夜空を見上げながら、ぼんやりと) アークトゥルス、むぎぼし……、スピカ、しん  
じゅぼし……、アンタレス、ほうねんぼし……。 (ぬひぐるみに) お星さまの名前っ  
て、だれがつけたのかな……。 あなたはキキ……。 わたしがつけた……。 わたしは  
アリス……。 おかあさんがつけた……。 でも、あの人は……。 わたしは、アリスっ  
て呼ばれるからアリスなの……。？ それとも、わたしがアリスだと思ってるから、  
アリスって呼ばれるの……。？ だれがわたしをアリスって呼んでくれるの……。？  
だれがわたしを……。アリスって、わかってくれるの……。？

風。

男1が、ゆっくりと現れる。

アリス 長い電話……

男1 (すまないといふ顔)……

アリス こんな時間もかってくるの、毎日……？

男1 (項突く)……

アリス お仕事……？

男1 あゝ……(アリスの顔を見る)

アリス なに……？

男1 いや……

アリス あの……

男1 ……

アリス 名前、きいてない、まだ……

男1 ……

アリス ……

男1 名前は、つけられる方よりも、つける方の役に立つ……

アリス それ、アリスの言葉……『鏡の国』、スルー・ザ・ルッキング・グラス……

男1 (項突く)……

アリス じゃあ、わたしの名前って、わたしの役には……

男1 ……

アリス どんなに呼んでもらっても……

男1 ……

アリス どんなに返事をして、わたしは知ってもらへない……

男1 ……

アリス ……

男1 相手のことは……

アリス え……

男1 知りたくないか、相手のことは……

アリス 相手の……

男1 自分だけじゃ、話、できない……

アリス ……

男1 知らせるだけ、話、できない……

アリス うん……

男1 私も、独りだった……

アリス だった……？

男1 今は……

アリス ……わたしが……？

男1 (項突く)……

アリス ……

風。

男1 (ゆつくりと空を振り仰ぎ)星……

アリス ……?

男1 見たいか、もっとたくさん……

アリス 星……?

男1 見たいか……

アリス (項突いて)うん……

男1 ……

アリス おとうさん、仕事いそがしかったし……

男1 ……

アリス 田舎とか、旅行に行ったこともないから……

男1 ……

アリス ……

男1 星、たくさん見えるところがある……

アリス どこ……

男1 私の国……

アリス え……

男1 空全部、星……

アリス ぜんぶ……

男1 たくさんの星見ながら、大きくなった……

アリス いゝな……

男1 ……

アリス うらやましい……

男1 知りたいか、私の国……?

アリス (項突く)……

男1 よし……

アリス ……?

男1 行かう……

アリス (少し笑って)いつかね……

男1 いや……

アリス え……?

男1 早いうち……来週中……

アリス そんな……

男1 厭か……?

アリス ……

男1 ……

アリス 行きたいけれど……



男1 ……

アリス ……

男1 好きか、この国……

アリス わからない……

男1 ……

アリス でも、この国、狂ってるって、興信所の人……

男1 「興信所」といふ単語に微かな反応……

アリス この国から……

男1 アリスは、不思議の国から、脱け出す、必ず……

アリス かならず……

男1 ……

アリス ……

男1 解るか、私の国の言葉……？

アリス (首を振る)……

男1 私の国の人、アリスの言葉解らない……

アリス ……

男1 だから、大丈夫……

アリス だから……？

男1 解り合ふためには、言葉、要らない……

アリス (項突く)……

男1 アリスはアリス……

アリス ……

男1 どんなどきでも、どんなどころにあても、私にとって、アリスは、アリス……

アリス わたしは……

男1 (項突く)……

アリス (男1の眼を見る) ちゃあ、あなたは……

男1 私……？

アリス あなたの名前は……

男1 私の、名前は――

ト、不意に鳴る、男1の携帯。

時々短い言葉を挟みながら、携帯を聞いてゐる男1。その横顔を見つめ続けるアリス。

男1 是后天 对嗎 (Shì hòutiān duì ma)…… 知道 (Zhīdào le)…… (携帯を切る)

アリス ……

男1 明後日……

アリス ……

男1 船が出る……

アリス (密出国であることを悟る)……

男1 (微かな笑み)……

アリス (ゆつくりと項突く)……

男1 (初めて素顔を見せるかの如く、ほおつと息を吐き)私の国、もっと暖かい……

アリス ……なんか、あつたかいもの、買ってくる……

アリス、駈け去る。男1、一瞬、とどめようとするが、思ひ留まる。

音楽。

アリスの去った方と反対側から男4が現はれる。はつとして振り返る、男1。

男1 (油断してゐたことへの後悔)……

男4 元気さうだな……

男1 (男4を凝つと見つめる)……

男4 疾とつくの昔に、国に帰つたと思つてたがな……

男1 ……

男4 判つてんだろ、こつちの言葉……

男1 ……

男4 あんた、さつきの娘と、どういふ関係なんだ……？

男1 関係ない、お前には……

男4 それが大ありでな……

男1 (上着の内側に手が伸びる)……

男4 おつと、待つてくれ……

男1 (手が止まる)……

男4 知つてたよな、俺の商売……

男1 ……

男4 あの娘の父親から、素行調査の依頼を受けてる……

男1 父親が……？

男4 さうだ……

男1 ……

男4 どうやら近頃の父親は、他人を通さないと、娘とコミュニケーションできないらしい……

男1 ……

男4 あの娘、どうしてあんたに、声掛けた……？

男1 (首を振る)……

男4 誘つたんだろ、あの子の方から……

男1 (ゆっくりと項垂れる)……  
男4 あんた、あの子の客なのか……？  
男1 違ふ……  
男4 ぢやあ、何だ……  
男1 友人だ……  
男4 ……  
男1 ……  
男4 なら、どうしてだ……？  
男1 ……  
男4 どうして、あの子はあんなどこに立つて、男に声掛けまくるんだ……？  
男1 ……  
男4 まるで、自分を痛めつけるやうに……  
男1 ……  
男4 友人なら判るだろ……！  
男1 (首を振る)……  
男4 俺はな、ずっと調査してたんだ……  
男1 ……  
男4 あの子はいつだつて独りだった……  
男1 ……

男4 学校関係も調べた……。友達と呼べるやうな知り合ひは一人もゐない……  
男1 ……  
男4 そんな子が、どうして、一瞬で友達作れるつてんだ……？  
男1 気が合った……  
男4 コドクな女子高生と、ヤクザに追はれてる留学生崩れの間、どんな共通性があるつてんだ……！  
男1 ヘイユウセンだ……  
男4 平行線……？  
男1 non-Euclidean geometry……  
男4 ノン・ユークリディアン……？  
男1 ……  
男4 思ひ出したよ、あんた、数学やつてたんだつたな……  
男1 ……  
男4 まさか、宿題の相談に乗ってましたなんてんぢやないだらうな……  
男1 ……  
男4 かういふ話を聞いたことがある……  
男1 ……  
男4 あんたみたいな不法滞在者が国へ帰るときに、こつちの国の女連れてると、警察の眼ゴマカせて便利なんださうだ……

男1 ……

男4 それで、一緒に国まで連れてって、用済みになった女は、その場でどっかに叩き売るってな……

男1 誤解だ……

男4 (男1を見据えながら)半年前、行方不明の女子高生を追ってた……

男1 ……

男4 あんたの名前を聞いたよ、それもあちこちでな……

男1 ……

男4 (押し殺した声で)アリスから離れる……

男1 ……

男4 例の奴らが、あんたがガキと一緒にいることを知って、俺んとこに情報流せと云ってきた……

男1 ……

男4 それだけぢやない、ホテル街の公園で一人殺つたら……

男1 ……

男4 警察が動いてる……

男1 ……

男4 奴らも知ってる……

男1 ……

男4 巻き添へにする気か……

男1 いや……

男4 なら……

男1 (顔を上げると、男4の眼を見つめながら)選ばせる……アリスに……

男4 巫山戯たこと云ふな……!!

音楽。

カップを持った男2とポットを持った男3がゆつくりと現はれる。

男2 やつと会へたな……

男1の手が、素早く上着の内側に伸びる。それを見て、男3の手もさつと動く。

男2 お茶でもご馳走したいところだが……

男1 ……

男2 生憎、カップが一組しかない……

男1 ……

男2 そろそろ、パーティーもお開きの時間だ……

男1 (さっと周囲(眼をやる)……)  
男3 逃げてても無駄だぞ、俺たちだけぢやねえんだ……  
男1 ……  
男2 一緒に来てもらはう(カップを啜る)……  
男1 断はる……  
男4 当然の返事だな……  
男3 (男4に)まさか、そいつと組んでんぢやねえだらうな……  
男4 お前さんの顔見てたら、そっち側に付く気が失せたよ……  
男3 野郎……  
男2 云った筈だ、パーティーは終はりだと……  
男4 丸腰で出張(で)つてくるわきやないよな……  
男3 さあな……  
男4 まさか、街中(まちなか)でぶっ放すわけにやいかないだろ……  
男3 関係ねえよ、どこだらうと……  
男4 その辺にうようよあるんだろ、警官(でんすけ)連中……  
男2 時間稼ぎはよせ……  
男4 ……  
男2 稼いだって、何にもならん……  
男4 (男1を顎(あご)で示し)こいつ連れてって、どうしようってんだ……

男2 お前には、関係ない……  
男4 また、その台詞か……  
男3 何……  
男4 関係あるんだよ、生憎と……

音楽。

男5がゆつくりと現はれる。  
凍り付く一同。驚愕する男4。

男5 待つてください……  
男3 誰だ、お前……？  
男5 アリスの父です……  
男1 ……！  
男3 アリスって、あのガキの……？  
男5 (男4を認め)居ても立つてもゐられなくなりましたね……  
男4 それは……  
男5 こんな時間に、この街を彷徨(さまよ)くなんて、初めてのことですよ……  
男3 何だつてんだ、一体……？  
男5 お仲間ですか、ここにいらっしやる方々は……？

男4 違ひます……  
男2 些か取り込んでましてね……お帰り願へませんか……  
男5 さうですか……

このやり取りの間に、くむ罐コーヒを持って戻ってくるアリス。が、この光景を眼にし、物陰でぼやげん惘然と立ち尽くす。

男1 アリスのお父さん……  
男5 はい……  
男1 お嬢さんを、私に下さい……  
男5 は……？  
男4 貴様……！  
男3 藪から棒に、何ぬかしやがる……！  
男1 (流暢に)私は、アリスさんを愛してゐます……  
男5 (男4に)どういふことです……  
男4 (男1に)やめろ……！  
男2 ふん、偽装結婚か……  
男5 偽装結婚……？  
男4 こいつは、この国の人間ぢやありません……

男5 外国人……  
男2 しかも、滞在期間超過のな……  
男5 あの子は、そんな奴と……？  
男4 え……  
男5 あの子を、渡せと……  
男3 あんたの監督不行届だよ……  
男1 (凝つと、男5を見る)……  
男4 (男1に)貴様、どういふ状況に置かれてるのか、判つてんのか……？  
男1 私は、アリスを、愛してゐる……  
男4 嘘を吐くな……！  
男1 本当だ……  
男2 (男3に、携帯で仲間を呼ぶやう合図)おい……  
男5 あの子は……  
一同 ……  
男5 あの子は渡せません……  
一同 ……  
男5 あの子は、アリスは、私が必要なんです……病んでゐるんです……

意を決して進み出るアリス。

男1 アリス……

アリス おとうさん……

一同 (アリスを見る)……

男5 おゝ、アリス、さあ、お父さんと帰らう……

アリス どうして、こんなとこに……

男5 今まで抛はなつといてすまなかった……。話したいこと、たくさんあるだらう……  
……? さあ、何でも話してくれ……。淋しみしかったんだらう……。? もう話を聞いてくれる人を探して歩く必要はないんだよ……。お父さんがあるからね……。  
ずっと、ずっとあるからね……。 (しゃがみ込む)

アリス おとうさん……

男4 (男5を労いたはるやうに) 病んでゐるのは、娘さんぢやない……。あんたの方だ……

アリス お父さんが……

男4 (アリスに) お父さんのこと、様子がかしいんで、一寸調べさせてもらった……

……

アリス ……

男4 娘のために仕事を休むなんて云つて、本当は無断欠勤してるんだ……

アリス そんな……

男4 リストラだよ……。窓際族になつちまつたんだな……

アリス ……

男4 仕事一筋だったやうだからな……。耐へられなかったんだらう……

アリス ……

男4 お前さんにお父さんが必要なぢやない、お父さんにお前さんが必要なんだ  
……

アリス おとうさん……

男2 家庭の事情の開陳は、俺たちの用が済んでからにしてくれねえか……

男3 押つけ、応援が来る……

男2 (男1に) さあ……

男3 大人しく来い……

男2 ケデメ、だからな……

アリス 待つて……!!

男3 ガキは引つ込んでろ……

アリス (男1に) わたしは、だれ……? ?

男3 何云つてやがる……

男2 お前はアリス、俺が決めた……!!

男4 自分で決めろ、私はアリスだと……!!

アリス わたしは、アリスなの……? ?

男1 (アリスを見る)……

アリス あなたのオハナシのなかのアリスでしかないの……？

男1 ……

アリス 三角関数や、平行線や、たくさんのお星さまは……？

男1 ……

アリス 昔むかしひとりの数学者が書いたオハナシだったの……？

男1 ……

アリス どこにゐるの、アリスは……

男1 (アリスの方へ歩き出さうとする) ……

男2 待て……！

男2、男1の襟首を掴みにかゝる。男1、反射的にそれを躲し男2を刺す。呻いて頹れる男2。男1そのまゝ、アリスに駆け寄らうとする。

男5 (気はひを察して、アリスを庇はうとする)アリス……

男3 野郎……！

男3、短刀を出す、喚きながら男1の方に駆け寄り、刺さうとするが、男1に躲され、男5を刺してしまふ。倒れ込む男5。

男3 糞……！

一瞬遅れて、男3を取り抑へる男4。

男3 放せ……！

男4 莫迦野郎……！

男3、自分の刺した相手を見て、愕然、そのまゝたり込む。  
アリスの側に立つ男1。男4と睨み合ふ。

アリス (男5に縫り付き)おとうさん……

男4 アリスから離れろ……

男1 (アリスを見下ろす) ……

男4 離れろ……

アリス (男1を見上げる) ……

男1 アリス……

アリス ……

男1 私とアリスが一緒にゐた間だけが、オハナシの時間だった……  
アリス ……



男1 オハナシは、二人の間にしか、ない……  
男4 貴様……

アリス 待つて……  
男1 我想跟你一起看星星(Wǒ xiǎng gēn nǐ yìqǐ kàn xīngxing)……

飛び掛からうとする男4を躲して駆け出す男1。

遠くで爆竹のやうな乾いた銃声。

立ち尽くすアリスと男4。

アリス (呟くやうに)星を……いつしよに……

遙かにパトカーのサイレン……。

## 7 雪気 ゆきまけ *Le temps neigeux*

アリスだけに一条の光。

立ち籠める雪の気はひ……。

アリス (ぬひぐるみに向かつて)さあ、だれが夢を見てみたかといふことを考へてみませうよ……。これはたいせつな問題よ……。いゝこと、キキ、それは、わたしかアリスかどっちかだったはずよね……。アリスはわたしの夢だったけど、わたしもアリスの夢だったわ……。ねえ、キキ、わたし、かう思ふの……きつと、どつちも夢で、どつちも現実だったのよね……

ト、繁華街の通行者たちが現れ、何やら忙しげに往来する。

その都会の雑踏に呑み込まれさうになりながら、行むアリス。

不意に、アリスを呼ぶ声々、あちこちから起こる。アリス、その声を聞きながら、次第に俯いてゆく。

声1 アリス……

声2 アリス……

声3 アリス……

声4 アリス……

声々、次第に高まって、

声 アリス……！！

アリス——いゝえ……

通行者たち、ストップ・モーション。

アリス わたしはアリスではありません……。 (顔を上げる) なぜならわたしは、あの人とオハナシするときだけ、アリスだったのですから……。けれど、わたしはアリスです……。なぜならわたしは、これからもだれかとオハナシするからです……。さう、やつとわかつたのです……。伝へたいものなど、さいしょからなかつたことを……。さうして、ほんたうに伝へたいことは、オハナシするなかでしか、生まれてこないといふことを……。夕暮れどきに、不思議の国からかへってきたアリスには、みんなわかつてゐたのでした……。だから……

ト、アリス、一瞬にしてあのオハナシの中のアリスの姿になる。

アリス わたしは……

音楽。

背後に広がる夕暮れの街。その中へゆつくりと去って行くアリス。  
ゆつくりと暗転。

幕。

## 【参考文献】

- Carroll, Lewis (1865) *Alice's Adventures in Wonderland* 『不思議の国のアリス』柳瀬尚紀]ちくま文庫、1987。
- Carroll, Lewis (1871) *Through the Looking Glass What Alice Found There*. 『鏡の国のアリス』柳瀬尚紀]ちくま文庫、1988。
- Goulter, Barbara & Mimminger, Joan (1993) 『父と娘 心のダンス』連 希代子]誠信書房、1997。
- いのうえせつこ(1996)『買春する男たち』新評論。
- 大沢在昌(1995)『炎蛹』新宿鮫V、カッパ・ノベルス、光文社。
- 清永賢二(1995)『消費社会と「親子」探しゲーム』『異界』を生きる少年少女』東洋館出版社。
- 清永賢二(1997)『漂流する少年たち——非行学深化のために——』恒星社厚生閣。
- 黒沼克史(1996)『援助交際』文藝春秋。
- 桜井亜美(1996)『イノセント ワールド』幻冬舎文庫、1997。
- 高山 宏(1981)『アリス狩り』青土社。
- 田中健之(1997)『流氓<sup>リトル</sup>哀歌』ヤクザという生き方 日本黒社会』別冊宝島三三七、宝島社。
- 野尻抱影 編(1982)『星座』恒星社厚生閣。
- 速水由紀子(1997)『援助交際の娘とその父』臨時増刊『子どもがあぶない』AERA 四五、朝日新聞社。
- 原田真人(1997)『バウンスkōGALS』シナリオ』五三一—二二、シナリオ作家協会。
- 福島祥行(1997)『認識・文化・コミュニケーション——認識コミュニケーション論・試論』『人文研究』大阪市立大学文学部。
- 溝口 敦(1997)『不良』中国人たちの経営哲学』ヤクザという生き方 日本黒社会』別冊宝島三三七、宝島社。
- 宮島 龍(1997)『不夜城』新宿・歌舞伎町——ならず者どもの蠢き』ヤクザという生き方 日本黒社会』別冊宝島三三七、宝島社。
- 宮台真司(1995)『団塊親の幻想性の意味するもの』『異界』を生きる少年少女』東洋館出版社。
- 少女座(1987)『アリスの本』少女座』少女座編集室。
- 大航海(1997)『父』の歴史』大航海一九、新書館。
- 夜想(1990)『少女』夜想二六、ペヨトル工房。
- 島根県警・不法就労・滞在関係Q&A(1997/12/20) [Online] Available: <http://www2.pref.shimane.jp/police/job/ga.htm>。
- 日本弁護士連合会 編(1993)『問われる日本の人権』日弁連カウンターレポート、ちくま書房 [Online] Available: [http://www.nichibenren.or.jp/hrsym\\_po/jrv/crt3b.htm](http://www.nichibenren.or.jp/hrsym_po/jrv/crt3b.htm) (1997/12/20)。